

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会福祉法人 誠和会		
事業所名	グループホームすみれの花		
所在地	福岡県福岡市早良区荒江3丁目20番3号 (電話) 092-833-1880		
自己評価作成日	平成 25 年 7 月 15 日	評価結果確定日	平成 25 年 10 月 9 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 8 月 8 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【①利用者本位のケアを心掛けている。】 利用者の能力・趣味・趣向・生活の継続性等を考慮した上で、日常生活の支援を行なっています。洗濯物干し、食事のつぎ分け、お菓子作り、生け花等役割を持って頂き、出来る事は奪わない、出来ない事への支援を心掛け、季節行事や外出は希望を聞きながら進めています。

【②家族との連携】 面会時に報告・相談を受け、カンファレンスを通じて連携を取っている。また、忘年会や外出など家族参加の行事を行い、職員・家族間の交流を図り、信頼関係を構築しています。

【③職員の質の向上】 事業所内・法人内では年間を通じて計画的に職員研修を実施し、法人外では勉強会に行く機会を創出し、職員の知識・技術の向上に繋げています。また、他事業所との連携・情報交換や交流も推進し、職員の質の向上を図っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はマンションが多く立ち並ぶ住宅街の中、母体施設である特養と同じ敷地内にある。敷地内には、多くの樹木や草花が植えられ、くつろげる空間が設けられている。事業所内も清潔で、利用者が活けた季節の花や習字などの作品が飾られ、利用者の居心地の良さと生き生きとした暮らしを感じることができる。全職員は常に理念の実践を念頭に置き、利用者の日々の生活が豊かなものとなるよう援助している。現在は『利用者それぞれの願いを叶えよう』という目標を設定し、利用者の願いを実践することで、利用者や家族と共に喜びを共有することができている。地域の住民とは季節の行事や日々の暮らしの中での交流により、住民同士としての信頼関係を築いている。職員の資質向上のための研修体制も充実し、職員が安心して生きがいを持って働ける環境が整えられている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「すべての方の人格を尊重し、共に歩み共に喜びお一人お一人が主体性を持って地域での生活が継続できるよう自立のお手伝いをさせて頂きます」を共有できるよう職員の名札にいれ、それが実践に繋がるよう朝礼、会議で理念を唱和し会議やカンファレンスを通じてサービスの質の向上に心がけています。	事業所独自の地域密着型としての理念があり、朝礼時の唱和やミーティング時の話し合いにより、職員間の意識の共有と実践に向けての取り組みが行なわれている。利用者への言葉かけなど、気づいた時は職員間で注意するなど日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し地域の清掃や地域行事へ参加し交流を深めている。地域のスーパーやクリーニング店では、顔なじみになり、近隣散歩でお会いすると地域の方が、声をかけて下さったり、夏祭り、敬老会等の行事に参加すると、利用者の見守りや、椅子を用意して下さったり、自然な形でフォローして下さる。	町内会に加入し、公園の清掃活動、廃品回収、地域の夏祭りや敬老会などに参加したり、事業所主催の夏祭りや餅つきに地域住民が参加することにより、地域の住民としての関係を築くことができている。近隣の幼稚園や小中学校の慰問、交流の機会もあり、ボランティアも毎週受け入れている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の方の相談に応じたり、希望により認知症予防の勉強会等を開いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、利用者、家族、民生委員、包括支援センター職員などの参加を経て、サービスの提供状況を報告している。近隣の住民や入居者様の知人などの参加もあり、多彩な意見が寄せられ、会議で出た意見は職員で共有し、サービス向上に役立てています。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。参加者は利用者・家族・市町村職員・包括支援センター・民生委員・近所の方や法人内の職員である。事業所の現状の報告や参加者からの意見が活発に出されており、出された意見はサービスの向上に活かすことができている。運営推進会議と同時に、消防訓練や認知症サポーターなどの研修も行っている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政機関（いきいきセンター）へ出向き、困難事例の相談をしたり、介護保険制度についての疑問点をうかがったり、運営推進会議に参加して頂き、助言を得たりとわからない事があつたら随時連絡しています。	行政や地域包括支援センターとは、報告や相談ができる関係ができている。包括支援センターには事業所だよりを持参するなど事業所の現状を報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束委員会が設置されており、委員を中心に取り組んでいます。職員も、法人内の研修会で身体拘束に関して正しい知識が得られるよう研修計画に入っています。	日中、玄関や居室には施錠せず、自由に入出りできるようにしている。職員は利用者の外出傾向は把握し、随時付き添って外出するなど、利用者の行動を制限しない援助を行なっている。マニュアルや研修体制も整備され、全職員で利用者の気持ちを尊重し、身体拘束をしないケアへの取り組みを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回のグループホーム会議、カンファレンスなどさまざまな場で言葉遣いや態度に問題が無いかに注意しあっている。施設内（法務局に来てもらい）で勉強会も行ない、参加できない職員も資料を閲覧し、知識の向上に努めており、外部研修にも参加している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、法人内での研修や勉強会で制度について学び、理解を深めている。現在までは活用している事例はないが、玄関に自由に持ち帰ることが出来るようパンフレットを準備し、必要時に説明しやすいように準備している。	権利擁護に関する制度について、契約時に利用者や家族に説明を行っており、玄関にはパンフレットを設置して、必要時に活用できるようにしている。管理者や職員は事業所や法人で行なう研修・外部研修を受講し、知識を深めている。受講した記録や報告書も整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初期導入時の関わりが非常に大事なので、申し込み→面談→契約という手順で、利用者様やご家族の不安や疑問を尋ねながら、多職種による説明を行なっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置すると同時に、玄関にご意見箱を設置している。家族の面会も多く、その際意見が気軽に職員に言えるようご家族とのコミュニケーションを心掛けている。行事にも家族の参加を促し、意見を聞いたり、アンケートを実施して。出された意見は職員間で検討し運営に反映している。	利用者・家族の意見や要望を、管理者や職員はできるだけ多く聞き取ろうとし、その実施につなげている。家族の訪問や行事など交流する機会も多く、意見や要望を聞く機会も多い。利用者との要望と一緒に野菜や漬物をつくったり、庭にくつろげる椅子を設置するなど、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のグループホーム会議、申し送り、などで意見や提案を聞き運営に反映させている。また、タイムカードの横にご意見ポストを設置したり、施設長との面談の機会があり、悩みや改善点について直接話すことが出来る。	管理者は職員からの気付きや意見を積極的に聞き、取り入れる体制をつくっている。職員からのアイデアも豊富で、利用者の楽しみや喜びにつながっている。管理者は職員と個別に話せる場所をつくり、安心して生き生きと働ける環境を整えている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に合った研修会の参加を促している。また、個人面談や、各部署会議、親睦会を行い内部コミュニケーションを高めている。勤続3年以上の職員にはドイツや韓国への海外研修に派遣する仕組みがある。また、永年勤続者には永年勤続功労が実施。系列法人内に保育所を設置するなど、働きやすい環境を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	本人の資質や介護への情熱を重視した採用を行っており、事業所には性別、経験、年齢など様々な職員が従事しています。調理やレクレーション等で職員の能力を発揮してもらっており、個人の希望休日の調整や、急な勤務交代にも柔軟に対応している。	職員の募集や採用に関しては、性別や年齢を理由に採用対象から排除することはない。研修体制も充実し、職員それぞれの能力が発揮できる職場づくりがなされている。職員数は常に余裕を持たせ、職員の引継ぎなどにより、サービスの質を低下させないようにしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新採用時及び年間を通して計画的に『高齢者に対する尊厳』や『プライバシーの保護』、『高齢者虐待防止』などについて教育を実施している。時には外部機関に来ていただいています。	全職員が高齢者虐待防止や人権に関する外部・内部の研修に参加し、利用者を尊重した援助にむすびつけている。パンフレットや研修記録、報告書等も整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	クリニカルラダーを活用し、目標に対して計画をたて、実施し、今後の課題を確認しながら力量をチェックしている。管理者は職員と面談し、本人の目標設定と行動計画を把握し、力量のチェックを行っている。又本人の希望を取り入れながら、段階に応じた内・外部研修を進めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡市認知症高齢者グループホーム協議会Cブロックに属し、1回/月の勉強会に参加し、交流を図ると共に、サービスの向上に心がけています。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時には、本人・家族の思いが汲み取れるよう特に時間をかけて、話をしている。相談に来る方々は、どうしていいかわからずパニックになっている方も多いため、話を聞きながら、「何を望まれているのか」を模索している。また、ご本人とよりなじみの関係を作れるよう担当制にしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様。家族の希望に合わせて受け入れられるよう努力している。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに詳しい状況を伺い、「今、何が必要なか」を検討している。必要があれば、併設の他事業所職員とも相談している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、敬う気持ちを持って日々接している。また、一緒に日常生活を送り「できることを奪わない」「その人らしく」を大切に、共に支え合いながら喜怒哀楽を共にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に気軽に話し合える雰囲気を作っている。また、その都度ご利用者様の状況を家族に相談し、ご家族の思いを尊重している。他病院への受診の依頼や、入居者の発する思いをご家族へ仲介し、願い叶え実現に協力して頂いている。また、担当者会議にてご家族にも参加して頂きプラン作成に役立てている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教え子や友人などの面会時は、楽しいひと時を過ごして頂けるよう、場所の確保やお茶を出すなど配慮し、又、家族へも面会や差し入れがあった事を伝えている。入居者のつづやきを家族に伝え、理容室、お墓参り、仏壇掃除等家族へ同行して頂いている。友人へ電話を掛けたいとの希望時は、職員がお手伝いしている。	職員は日頃の会話の中から、馴染みの人や場所を把握し、関係継続のために積極的に働きかけを行っている。行きつけの理美容室やお墓参りに行ったり、恒例の神社へ初詣に行ったりする。知人と電話で話したいとの希望があれば支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を常に観察し、職員間で共有化しながら、家事の分担、レクリエーション、体操、席順などの配慮を行っている。孤立しやすい入居者様には、職員が間に入りコミュニケーションがとれるよう配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所になり、契約終了になった入居者様にも出来るだけお見舞いや様子を伺いに訪問しています。併設施設へ入所された方には、行事等でお会いする際声をかけ、関係継続を行っています。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に十分アセスメントを行い、日常のかかわりの中でも一人ひとりの想いや希望、意向を把握するため会話を大切にし、思いをくみ取り意向に添えるよう心掛けている。自分で訴えられない方に対しては、表情やしぐさなどからニーズを読み取る様にしている。	本年の重点目標として「願いを叶える」ことを掲げ、教職員だった方が小学校に行き生徒と交流したり、自宅で宿泊を行うなど、それぞれの利用者の思いを実現するための支援を行っている。職員は、日々の関わりの中で日常的に、利用者の思いや希望、意向等の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者へも配慮をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に、職歴や趣味・趣向、サービスを利用するに至った経緯や今まで利用したサービス等について幅広く話を伺っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で、生活リズム、過ごし方、心身状態の把握に努めている。その方の出来る事、解ることを常に観察し、今の状況を読み取り、対応をしている。日々の記録、会議や申し送りを通して情報を共有化している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員などで随時情報交換を行うと共に、月一度のモニタリング、必要に応じてカンファレンスを行っている。ケアプランは3ヶ月から6ヶ月で更新時に担当者会議を行い、定期的に見直しをしている。月に1回のグループホーム会議や申し送りなどで意見交換を行い、ケアプランに反映させている。	利用者の心身状態の変化や状況に応じて、今後予測されるケアや治療等も視野に、職員の気づきや意見等を反映しながら、一人ひとりの個別計画を作成しており、6ヶ月ごとまたは状況に応じて見直している。作成・見直しの際は本人・家族に報告のうえ、了承してもらっており、書面上の署名捺印がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに関する記録や療養記録があり、特記事項を記入しています。また、月2回経過記録を書き、計画書の見直しの際にも活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じた柔軟な対応が出来るよう日々のミーティングを重ねながら、検討、支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員らと運営推進会議や第三者委員などを通じて意見交換を行い、地域との関係強化を進めている。町の商店への買い物、クリーニング店への同行、地域行事へ参加し地域の方と交流できる機会を確保している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が協力病院であることから、入居時に事業所の協力医へ変更する場合もあり、受診や定期検診を実施している。眼科、歯科、耳鼻科、物忘れ外来等、かかりつけ医が違う場合には家族が連れて行かれる。物忘れ外来には入居者の情報提供を定期的に行っている。	受診は、希望により協力医療機関にするか、利用前のかかりつけ医を継続するかを選択している。いずれの場合も、受診の方法などについて、事前に利用者・家族の同意を得て支援にあたっている。受診時は経過等の報告、伝達についても確実にいき、情報を共有している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師と連携を取っており、日頃と違う様子に気づいたら報告、相談している。又、夜間もオンコールにて報告指示を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した場合は、お見舞いに出向くと共に、看護師や主治医などと情報交換を行なっている。家族とも情報を共有しながら、退院後も備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について話しています。また、ご本人や、延命についてもお話を伺い、アンケートに答えて頂いている。	重度化や終末期について、方針が明文化されており、利用開始（契約）時に説明とアンケートを行い、利用者や家族の意向も確認している。この意向を大切にしながら、関係者で繰り返し話し合いを行い、合意を図ったうえで支援を行っていく事としている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人で年間を通じて計画的に緊急時の対応や、救急蘇生法について内部研修を実施している。また、常日頃より緊急連絡ルートの確認を実施している。随時、外部研修にも参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、併設施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施、消防署の職員にも参加してもらっています。5月の訓練では、訓練前に消防署員に設備を見ていただいて助言を仰ぎました。	整備された防災マニュアルがある。年に2回、消防署の協力のもとで避難訓練を実施している。その際、避難経路や消火器の使用方法についても確認している。訓練には地域住民の参加がある。非常用備品は併設施設の倉庫内に準備されている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物は、目に触れないところに収納している。職員は、利用者様に対してプライドや尊厳を傷つけない言葉かけを心掛けるよう、グループホーム会議やカンファレンスを通じて確認を行っている。また、個人情報の取り扱いやプライバシー保護について研修を行っている。	職員は利用者の人格を尊重し、個性や歩んできた人生を大切に声のかけ方や言葉遣い、接し方などに注意して、利用者の誇り等を損ねないよう配慮している。プライバシーの保護についても徹底している。管理者は内部研修を行って意識向上に努めており、気が付いた事は職員間でその都度注意し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いについて話しやすい雰囲気を作るよう努めている。飲み物の選択、入浴、レク活動、その日の想いや希望をその都度うかがうようにしている。上手く言葉が出ない方へ複数個の選択肢を用意し発語しやすいような声掛けをしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の生活パターンに合わせた支援を行い、柔軟性を活かした支援を心掛けている。本を読みたい方、おしゃべりをしたい方、居家で過ごしたい方、動きを把握して、その方のペースの合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用しているが、個人で行きつけのある方は家族と行かれている。また、朝は、化粧される方、ヘアネットや眉を気にされる方への準備等その方に合わせてサポートしている。季節に合った装いが出来るようさりげなく助言したり、ご家族と連絡取りながらおしゃれ出来るよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士にメニューを用意してもらい、主に厨房で作り、汁物やおやつ作りを入居者と行っている。行事食や寿司バイキング等皆様に楽しみにされている。好みのリクエストで昼食を作ったりもしている。一人ひとりの出来る力を活かしながら、調理、準備、片づけを利用者と一緒に行っている。	食事は、隣接の特養厨房より調理されたものが届き、ご飯・汁物などの一部は事業所で利用者と一緒に注ぎ分けたり盛り付けたりする。職員は、同じ物を別に食べ、一緒に食事はとっていないが、介助や見守りをしながら、楽しいひとときになるよう努めている。鍋物や寿司などを全員で作る日を設けている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量をチェックし、摂取量の管理を行っている。摂取量の少ない方にはこまめな声掛けや、好みの飲み物の提供、再度食事の声掛けを行っている。食事混乱のある方は、容器の工夫や声掛け等職員間で共有している。月一回の体重測定にて、体重管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要物品を用意し、毎食後口腔ケアを行っている。うがいがうまく出来ない方には、洗浄液や入れ歯の方は、毎日、洗浄剤を使用し、浸けている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄リズムを把握し、失禁なく快適で清潔が保持されるよう心がけ、必要な方には時間や本人のサインを観察して誘導している。	職員は利用者の排泄パターンを把握しており、誘導に際しては周囲の配慮を忘れず、本人の尊厳を損なうことなくさりげなく行っている。失禁時等の対応も、手早く周囲に気づかれないよう配慮している。下剤を使つての排泄を避け、牛乳やオリゴ糖の摂取を勧めている。おむつ使用者はおらず、軽い物に移行する支援を前向きに行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表にて、一人一人の排泄状況を把握し、散歩や起床時の冷たい牛乳やオリゴ糖を飲み物に入れ、自然に排便できるよう支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人一人の生活習慣や好みの時間を把握し入浴の時間を考慮し、入浴の提供を心掛けている。希望があればいつでも入浴できるようにしている。入浴拒否のある方へは声掛けの工夫やタイミングを考慮したり、施設の温泉の利用をする等気分転換に努めている。	基本的に毎日入浴できる。入浴を苦手なされている方や拒否のある方でも無理強いせず、時間をずらして声かけする等工夫して柔軟に対応している。菖蒲湯、入浴剤の使用などを行い、入浴が楽しくなるよう配慮している。併設施設には、温泉水を使用した浴場があり、希望があれば、グループホームの利用者も入浴を楽しむ事ができる。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調面に注意しながら、休息を取って頂いたり、不眠傾向のある方は、日中の活性化や冬場は、足浴など対応している。徘徊のある方へは、温かい飲み物提供や一緒に過ごすなど、安心して頂ける工夫をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報提供表をファイルに入れて、いつでも確認できるようにしている。予測される副作用については確認すると共に、薬が変わった場合には、申し送りを通じて周知させている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、食事の準備、片づけ等その方の出来る事を探し、役割を持って頂いている。好みの音楽を聴いて頂いたり、一緒に歌ったり手芸、読書等今までの嗜好を継続して頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等希望に沿って外出しています。月に1回以上は遠方へ外出計画を立てて出かけています。ご本人の希望で自宅へ仏壇を拝みに行かれたり、個人の叶えたい願いを聞き取り本年度は、最低1つは実現に向けて取り組もうと目標を立てている。	体調、希望、天気等に応じて外出の支援を行っている。基本的には毎日散歩を行い、月2～3回の買物や月1回の外食等の他、月1回の遠方のドライブなどで利用者が普段行けない場所や、季節を感じる事の出来る場所への外出等に努めている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭はご自分で管理されている。又、常にお金を気にされているが、自己管理の難しい方でも職員の見守りにて所持して頂いている。買い物の際には支払いを自分たちで行なえるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望がある場合には、かけていただいている。携帯電話を持っている利用者様もあり、家族や友人とコミュニケーションを図っている。贈り物が届いたらご本人にお電話して頂いたり、お礼の葉書を出すなど支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた明るい施設であり、落ち着いた雰囲気の本調のドアになっており、安心して出入りできる空間になっている。温度・湿度にも注意し、空調や加湿器を使って快適な空間の維持に心掛けています。壁には写真や絵を飾り季節の花を飾っている。	ゆったりとした雰囲気は家庭的で、くつろげる、居心地の良いスペースを目指している。季節を感じる事ができるよう、職員が季節ごとの花や飾りを利用者と一緒に配置・飾りつけを行っている。職員の声やテレビの大きさにも気を配っており、光の強さはカーテン等で配慮している。刺繍・縫物などの作品や写真なども展示されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の腰かけ、廊下のソファ、リビングのソファなどで思い思いに過ごされる。廊下を歩かれ疲れられた際には、ソファに座ってくつろがれている光景も見られます。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や写真、絵など持参され、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	それぞれの個室には個性があり、生活の歴史が伝わるような写真や作品、家具や調度品の他、人形やぬいぐるみ、位牌など、馴染みの物や使い慣れた物等が置かれている。箸や茶わんも使い慣れた物を使用している。ベッド・エアコン・筆筒は施設が提供している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状況に合わせた家具や物品の配置を行い、手すり等を利用し出来るだけご本人の力で行動できる環境を作っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
			○	③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない